

大学との連携による集落の維持・活性化の試みと村民の意識啓発

概要

木島平村では、農村での「暮らしと生業」に自信と誇りをもつために農村文明塾を設立し、村民の学ぶ場である「農村学講座」、村民の趣味や特技を磨き地域づくりに活かす「村民研究員制度」、個別の大学の来訪を1つにまとめ複数の大学による「農村版大学コンソーシアム」を開催している。また、平成の合併で184となった村の連携のために「全国村長サミット」を開催した。今回の事業では、大学コンソーシアムに焦点を当て、単位認定等の検討も行った。

長野県木島平村



上段：地元の案内で集落点検。2段：農作業の合間に聴取調査。3段：農家からの誘いで民泊。お母さんの美味しい手料理に舌鼓。下段：学生主催の集落カフェ、多くの高齢者が参加

事業の内容

事業の内容

【農村版大学コンソーシアム夏季講座の開催】

6大学8人の参加。(秋季講座16人、冬季講座22人)集落の人との交流を深めるために5泊6日で集会所に泊まる。うち1泊は農家に宿泊(農家側からの誘い)。集落点検と聴取調査。集落カフェ、学生による協働プロジェクトの提案など。

総事業費

9.8百万円

ポイント

5泊6日の全行程を集会所に泊まり(里泊まり)交流を深める。夏季講座は集落点検等のフィールド調査、それに続きリピーターを確保するために「秋季講座：炭焼き体験と道祖神づくり(1泊2日)」「冬季講座：雪下ろしと冬の暮らし(2泊3日)」の農村の暮らし体験を実施。また、学生と共に農村学講座の企画・運営・実施を文明塾スタッフと協働で行いコーディネート体験を行う。

事業の成果

来村した学生は2年間で96人、内31人がリピーターとなって再訪している。集落の行事にもボランティアとして参加し、その中でコンソーシアムの受け皿となる「糠千清流の里」という集落全員参加の組織が立ち上がった。学生を泊めるという経験の中で女性達で農家民宿や農家レストランへの視察が計画されグリーンツーリズムへの取り組みが生まれている。また数年欠席していた運動会にも学生の参加で今年参加するなど集落自治への効果も生まれている。